

スランプ試験器

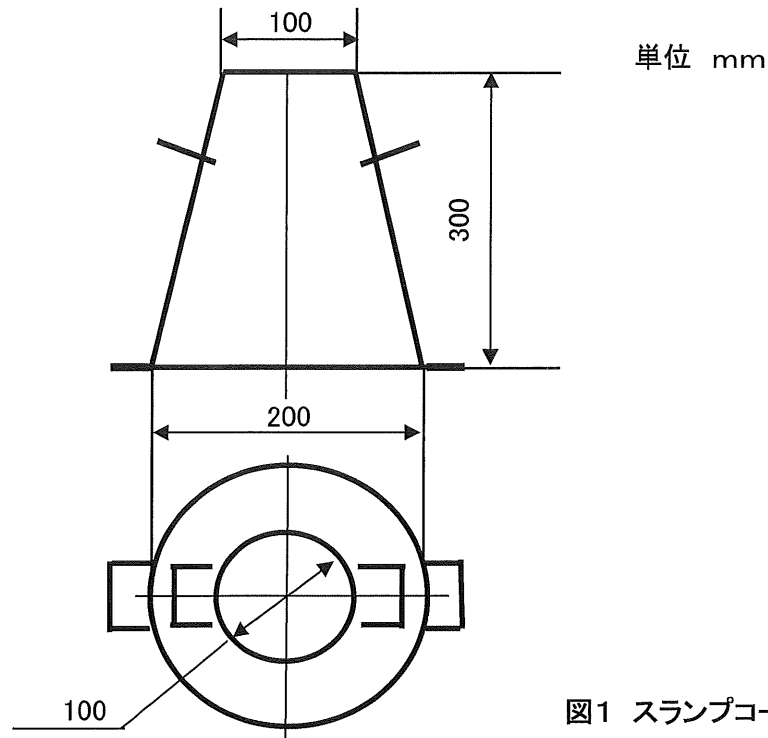
取扱説明書

1 試験器具

- 1.1 スランプコーン スランプコーンとは、図1のように上端内径100mm、下端内径200mm、高さ300mm及び厚さ5mm以上の金属製(※1)とし、適切な位置に押さえと取っ手(※2)を付ける。

(※1)セメントペーストに容易に侵されないもので、試験時に変形しないもの。

(※2)高さの約2/3の所



- 1.2 突き棒 突き棒は、直径16mm、長さ500mm～600mmの鋼又は金属製丸棒で、その先端を半球状とする。
- 2 試料 試料は、JIS A 1115の規定によって採取するか、又はJIS A 1138の規定によって作る。
- 3 試験 試験は次による。
- a) スランプコーン(※3)は、水平に設置した剛で水密性があり平滑な平板(※3)、(※4)上に置いて押さえ、試料はほぼ等しい量の3層に分けて詰める。(※5)その各層は、突き棒でならした後、25回一様に突く。この割合で突いて材料の分離を生じるおそれのあるときは、分離を生じない程度に突き数を減らす。各層を突く際の突き棒の突き入れ深さは、その前層にほぼ達する程度とする。
- (※3)スランプコーンの内面と平板の上面は、あらかじめ湿布などでふいておく。
- (※4)平板の水平の確認は、水準器を用いて行うのが望ましい。
- (※5)粗骨材の最大寸法が40mmを超えるコンクリートの場合には、40mmを超える粗骨材を除去する。
- b) スランプコーンに詰めたコンクリートの上面をスランプコーンの上端に合わせてならした後、直ちにスランプコーンを静かに鉛直に引き上げ(※6)、コンクリートの中央部において下がり量を0.5cm単位で測定し、これをスランプとする。
- なお、コンクリートがスランプコーンの中心軸に対して偏ったり、くずれたりして、形が不均衡になった場合は、別の試料によって再試験する。
- (※6)スランプコーンを引き上げる時間は、高さ30cmで2～3秒とする。

c) スランプコーンにコンクリートを詰め始めてからスランプコーンの引き上げ終了までの時間は、3分以内とする。

4 試験の結果 スランプは、0.5cm単位で表示する。

5 報告 報告は、次の事項について行う。

a) 必ず報告する事項

- 1) 試験年月日
- 2) 天候
- 3) 試験室の温度または気温(°C)
- 4) バッチ番号または運搬車番号
- 5) 粗骨材の最大寸法(mm)
- 6) コンクリートの温度(°C)
- 7) スランプ(cm)

b) 必要に応じて報告する事項

- 1) 突き回数(材料分離のおそれがあり突き回数を減らした場合)